校長の生徒・先生応援日記 Vol.31

学びの匂い

個性あふれる仲間の存在

私たちは、性格、価値観、感情などの印象をその人の個性として受け止め、理解しています。

解釈の幅を広げると、背の高い低い、体格の大柄小柄、目つきの鋭い優しい、能力の有無なども、その人を印象付ける一面です。

また、これら特徴は、他人との比較によるものが多く、つまり、周囲の人が自分を見て教えてくれたことで自覚します。例えば、「俺は歌がうまい」と思うのは、友達から「歌がうまいね」と言われた経験があるからではないでしょうか。「俺ってかっこいい！」と、鏡に映る自分の姿に酔いしれる人も中にはいますが、「頭いいなぁ！」「サッカーがうまいね！」「足が速いね！」など、多くは周りの人が誰かと比べて伝えてくれたことでしょう。

一方、人とうまく話せない、あきらめが早い、頑固など、短所も自分を表現する自分らしさだとすれば、他人よりも劣ることも個性ではないかと考えます。残念ながら、直接「足遅いねぇ」「歌がうまくないね」「サッカーが下手だね」と伝えてくれる人は、そうそういないでしょうが、できないことも苦手なことも大切な個性であれば、胸を張って良いはずです。

皆さんは、宮沢賢治の作品「どんぐりと山猫」を読んだことがありますか。一番偉いどんぐりを決める争いに、裁判長として山猫が呼び出される童話です。「俺は頭がとがっているから一番偉い」「俺は丸くて形がいいから一番偉い」「俺は背が高いから一番偉い」とそれぞれのどんぐりが主張します。その言い争いを見た山猫は、思わず「この中で、一番偉くなくてばかで、めちゃくちゃで、てんでなっていなくて、頭のつぶれたような奴が一番偉い！」と叫びました。これを聞いたどんぐり達は、自分勝手な言い訳を恥ずかしく思ったのか、黙ってしまいます。

認めてもらいたいと思う気持ちは誰にでもありますが、他人よりも優位にあるものだけにしか意識を持たないのはなぜでしょう。ついつい他人と比べてしまい、うまくいかないなぁと思う時ほど他人が良く見えてしまうものです。でも、他人の欠点で自分を優位にすることより、自分のダメなところを受け入れて自分らしく生きていくことの方が大切なのではないでしょうか。

よく考えてみてください。完璧を求める人は数多くいますが、何でもできて万能な人など存在するわけないのです。

折りたたみの傘が手放せない梅雨の中、昨日の大雨が嘘のような快晴となり、恒例の体育祭が開催されました。この日だけは、走るのが速い人も遅い人も、背の高い人も低い人も、運動が得意な人も不得意な人も、勉強ができる人も苦手な人も、歌が上手い人も下手な人も、生徒も教師も日常の生活から離れ、全力でスポーツに臨みました。競技が始まると、割れんばかりの歓声がグランド一杯に溢れます。生徒は、それぞれ精一杯の力で、走り、跳び、仲間を応援します。

生徒の中には、自信の無さからみんなに迷惑をかけてしまうのではないかと不安で眠れなかった人もいるのではないでしょうか。

会場では、たとえ、抜かされても、転んでも最後まで諦めない姿への惜しみない拍手があり学びの匂いとなって、大切な存在である仲間を勇気づけていました。

個性には、順番や優劣などありません。できないことやうまくいかないこと、自信が持てないこと全てがその人らしさを物語る大切な財産なのです。

令和７年６月